



おもちゃ箱なごplus 事業者における児童発達支援自己評価結果

公開日：2025年3月31日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点など
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		広いスペースの確保は充分だと思う。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		適正に配置している。 余裕が持てるようスタッフの増員を考えている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	1	階段に手すりがあるの で配慮はしているつもり。	外部（保護者やその他関係機関の方々）からの声に耳を傾けその都度整備等行っている。 (バリアフリーは難しい)
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		コロナ流行以降、消毒をこまめに行い清潔な空間を保つよう努力している。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		個別の対応も行えるような環境作りは行っている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	1	毎朝ミーティングを行い、問題があるときはみんなて話し合っている。	全体の把握が出来ていないこともあるので把握できるようにする。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		毎年行っている。保護者の貴重な意見を参考に環境整備や業務改善につなげるよう意識している。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	1	定期的に話し合いをして、改善につなげているつもり。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。				外部評価は行っていない。今後検討していくと話し合っている。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	1	事例検討会を実施。その他、外部への研修も参加している。	スタッフ全員、バランスよく参加できるようにしたい（交代づつ）
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		HPに公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		相談員、保護者、利用事業所が集まり担当者会議で話し合い計画を作成し利用開始する。その後も密に連絡を取り合う。	子どもの支援に必要な項目（5領域）を含めながら、モニタリングで分析したうえで作成しているが、もっとわかりやすくできるようにしたい。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		子どもたち一人一人に合わせて、関係者全員でモニタリングし、必要な支援を吸い上げ検討している。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		おこなわれている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。			事業所独自のアセスメントツールを利用している。	

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		支援内容は、相談員、保護者、他事業所との話し合いの中で長期目標を掴み、事業所にて短期目標を制定し、具体的な目標（支援内容）を考え計画を立てている。	5 領域を踏まえながら、モニタリング時の保護者の要望（意見）も取り入れ、より適切で具体的な支援を考えていきたい。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		全スタッフで行っている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		固定化されないよう、みんなで話し合って工夫している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6		個別と集団の組み合わせをスタッフ総出で話し合って計画し支援している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		朝のミーティング時その日の流れや内容、役割分担など確認でしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		送迎後、その日の振り返りし、スタッフでの共有とする。休んだスタッフの為に必要な情報は業務日誌にも記入。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		日々の7支援内容に関しては、こと細かく記録を取りスタッフ間で共有している。	「自立支援と日常活動の充実」「多様な遊びと体験」「地域交流」「子供が主体的に参画する」を組み合わせ、偏りない様な支援をさらに模索し行っていきたい。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		モニタリングは相談員が中心になり行う。その前にスタッフ間のミーティングにて目標の達成度等話し合う。	その上での支援を更に広げたい。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		管理者や児発管が参加している。	今後は、スタッフ全員、誰が参加しても遜色ない様な形にしたい。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	1	行政や利用児の保育所、学校等は連携し支援を行っているが、地域の保健や医療機関などは保護者を介しての連携になっている。	地域の保健、医療機関とは個人情報の観点からなかなか連携が取れない。保護者が間に入ることで初めて連携が取れる。もっとスムーズにうごけないか検討中。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		情報共有を行っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		移行前に、小学校の担任やSSWと一緒に調整会議を行い、情報共有している。	
	28	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	6		研修があるときは積極的に参加し、支援に関するアドバイスをいただいている。	
	29	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		6	感染症が無くならず、交流を控えている。	保護者の意向を踏まえながら、今後交流を持ちたいと思っている。
	30	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		Lineや電話、送迎時に対面して、密に連絡を取り合っており共有している。	
	31	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6		名護市開催のペアトレへの参加等をLINEや電話でお知らせしている。(対象年齢の保護者あてに)	事業所でのペアトレは行っていないが、今年度は資質向上のため、職員が研修を受講したので、要望があれば動けるよう準備している。

保護者への説明等	32	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	1	契約時に、管理者や児発管によって説明を行っている。	分からないことなどは、いつ聞かれてもこたえられるよう努めている。
	33	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		支援の中での子供の様子を踏まえ、モニタリング時に保護者の意向も確認しつつ計画している。	
	34	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6		モニタリング時に、毎回対面で支援内容を説明し同意を得ています。	
	35	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		相談には適切に応じ、今必要な支援機関などの助言を行っています。	
	36	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6		おもちゃ箱などなごplus合同でのクリスマス会や屋外活動等は開催出来ている。	コロナ後、感染症が残っていることから、まだ保護者会の開催など行っていない。今後、開催が出来るよう計画したい。
	37	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		なるべく対尾玉出来るようにしている。なるべく相談員も入ってもらって話し合いを設けている。	
	38	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		毎月のお便りと別に、ブログやLINEでも情報を発信している。	
	39	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		全て鍵付き保管庫へ。SNSへの写真掲載は保護者へ同意書をもっている。	
	40	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		目線の高さを合わせ話をし顔と名前を覚えてもらう。笑顔で対応する。	特性に合わせた、教材を考え、利用していきたい。
	41	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		6		コロナ後クリスマス会は行ったが、地域住民は招待できていない。（機会がない）
非常時等の対応	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		職員間では出来ている。事業所に掲げて保護者にも契約時に周知しているが、実地等の報告はできていない。	訓練の行った際、保護者への周知がうまくできていないので、お便りやブログなどで上手く発信していきたい。
	43	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		定期的に、年2回だが、機会を見て増やしていきたい。（AEDの訓練は行った。）	こちらに関しても設問42と同じで周知していきたい。
	44	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		契約時に確認。投薬についての指示書も事前に説明を受けている。	AED訓練を受けた際に、てんかん発作時の対応も確認済み。
	45	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		保護者から医師の指示書について事前に説明を受けて対応している。	
	46	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		安全計画マニュアルの中で支援している。	更に安全管理を徹底していきたい。
	47	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		保護者と連携はとれているが、周知が足りていない。	安全計画について、保護者への周知していく。
	48	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		話し合っている。	何かあったとき、ヒヤリハット作成し、職員への共有、本社への連絡。（ちょっとしたヒヤリハット、気づきも書いておくのが後々のため）
	49	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		外部研修や、定期的に社内研修をしている。（本社より講師派遣など）	

	50	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6		必要な保護者へはきちんと説明している。	契約時、支援計画書の更新時に身体拘束が必要そうな児童の保護者については説明を行っている。今後さらに保護者への説明を徹底し理解を求める。
--	----	--	---	--	---------------------	---